

自己評価報告書

平成23年5月16日現在

機関番号：32670
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2008～2011
 課題番号：20530535
 研究課題名（和文） 児童虐待の意思決定過程における日本型当事者参画モデルの構築に関する研究
 研究課題名（英文） Study on the developing the family participatory practice in Japan in the process of the decision-making of child abuse
 研究代表者
 林 浩康（HAYASHI HIROYASU）
 日本女子大学・人間社会学部・教授
 研究者番号：70254571

研究分野：児童福祉
 科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学
 キーワード：ファミリーグループ・カンファレンス

1. 研究計画の概要

親子分離を強いられた子どもに、かつての生活との継続性を保障する上で、親族を中心としたインフォーマルネットワークを意思決定過程において活用することは重要なことである。現在一部の欧米・オセアニア先進諸国では、児童虐待の援助における意思決定過程への子ども・親・親族を含む当事者たちの参画により、親族里親が増加傾向にある。こうした国々における当事者参画のあり方を検討し、日本における文化や現場の実情を踏まえた当事者参画のあり方を明らかにする。その上で、児童虐待の支援過程における当事者参画に基づいた意思決定モデルを提示する。

以上の目的に基づいた本研究は大別して国外・国内研究に分けられる。国外研究では、ファミリーグループ・カンファレンス（以下、FGC）を中心とした当事者参画モデルを採用しているイギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、オランダ、スウェーデンにおける意思決定過程への当事者参画のあり方について、文献および訪問を通して得られた知見に基づき国際比較を行う。国内では、神奈川県内の児童相談所で試みられている児童虐待の援助過程における当事者参画の実態を明らかにするとともに、FGCに関する情報を提供することで、FGC導入の意義と日本型実践モデルの構築を行う。

2. 研究の進捗状況

家族参画を最も高度に具体化したFGCが家族参画モデルとしては、参考になると考え、ニュージーランドで導入されたFGCを踏まえ、アメリカ、カナダ、イギリスにおけるFGCのあり方やそれらの相違を明らかにし、日本に適した家族参画モデルの構築を行

った。当初はとくにFGCを最初に開発し導入したニュージーランドにおけるFGCに特化して研究を進行した。その導入背景や導入後の評価を中心に研究を行った。

その後上記の国々へ実際に行き、FGCに携わる現場職員へのインタビュー内容、入手した資料、文献等を活用して、より詳細に内容を明らかにした。その成果を踏まえ、日本におけるFGC実施の可能性とソーシャルワークにおけるその理論づけを行った。

さらに、その成果を日本における関係機関職員と共有し、さらに日本における展開の可能性を示唆した。具体的には、神奈川県下にある児童相談所を中心に職員の方々と研究会を行い、FGC普及に向けた模擬FGCに関するDVDや、基本的内容を掲載したFGCテキストを作成し、全国の児童相談所に送付した。またソーシャルワーク理論におけるFGCの位置付けを明確にし、(1) ソーシャルワーカー機能に与えた影響として、①当事者参画に基づいた専門職役割の再編成と親族里親の活用、②ソーシャルワーカー役割の限定化と複数化、(2) ソーシャルワーク機能に与えた影響としては、①コミュニティ視点の具体化、②ストレングス視点の具体化と当事者だけの集団対話時間の確保といった概念を導き出した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

申請書内容との齟齬は多少ある。たとえば、上記以外の国におけるFGCをも視野にいられていたが、今回は上記の国々に限定することとした。それ以外は当初の計画通り進行している。

4. 今後の研究の推進方策

今後以下のことを計画している。

- (1) 海外および国内研究を踏まえ、日本国内で行われている児童相談所における先駆的家族参画型実践の把握と評価
- (2) 日本型FGCモデルの提示とその評価に関する児童相談所職員の意識調査
- (3) 日本型参画実践モデルの提示と、その普及を目的とした現場職員向けツール開発

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 林浩康「里親委託の推進に向けて」『世界の児童と母性』査読無、69巻、2010年、P13-P16
- ② 林浩康「児童福祉法改正とその課題」『家族社会学研究』査読有、第21巻2号、2010年、P228-P236
- ③ 林浩康・兼井京子「親族里親制度の現状と課題」『里親と子ども』査読無、第3号、2009年、p108~p114
- ④ 林浩康「欧米・オセアニア諸国と我が国における親族里親の現状と課題」『ライフデザイン学研究』査読有、第1号、2008年、p43~p61

[学会発表] (計3件)

- ① 林浩康「諸外国における親族里親の評価と日本への示唆」日本社会福祉学会、2010年10月10日、日本福祉大学
- ② 林浩康「里親養育と里親支援ソーシャルワークの確立を目指して」日本子ども虐待防止学会、2009年11月27日、大宮ソニックシティ
- ③ 林浩康「ファミリーグループ・カンファレンスの諸外国の取り組みと日本への導入の可能性」日本司法福祉学会、2009年8月9日、立正大学

[図書] (計4件)

- ① 林浩康他『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規、2009年、79~90頁
- ② 林浩康『子どもと福祉 子ども・家族支援論』福村出版、2009年、全189頁
- ③ 林浩康「第4章 児童福祉における家族支援」『現代の児童福祉』有斐閣、2008年、63~79頁
- ④ 林浩康『子ども虐待時代の新たな家族支援～ファミリーグループ・カンファレンスの可能性』明石書店、2008年、全211頁